

サボちゃん通信

NO. 6

生きものが好き

自然が好き



目次

・春よ来い	2
・アサギマダラを追いかけて	3
・蛾の同定に苦戦中	4-5
・昆虫 ONE TEAM	6-7
・サポーターは見た	8-9
・食草から探してみるのもアリ！？	10-11
・薪にくつつくべっぴんさん	12-13
・同定の分かれ道	14
・コラム ニホンアナグマの巣穴	15
・表紙描いて四方山話	16
表紙・イラスト	原まゆみ

春よ来い…

さぼちゃん達が活動しているのは博物館の別館で、築50年を優に超える建物です。去年の12月から外壁の修繕工事が始まり、建物の周りに足場が組まれシートで覆われて作業が行われているんですが、まあ暗いこと、寒いこと！

エアコンをつけても温もりが感じられません！大暖冬だというのに。いっそ建て替えた方がいいよね、なんてブツブツ言いつつも、お日様の力を改めて感じながらあれこれ作業をしています。

また、足場を立てるためにわたしたちの0円花壇は、一旦リセットとなりました。

アサギマダラのシーズンにはわざわざ見に来てカメラを向ける方もおられますから、このままにはしておけません。工事が終わる3月末にはもう一度土を耕しなおして改めて花壇づくりを始めますよ、今年も蝶がたくさん来てくれますように、いつもに増して春が待ち遠しい令和最初の冬です。(間田敬子)

アサギマダラを追いかけて

- 9月23日 車の中からアサギマダラらしきものを見かける。
- 9月26日 山陽小野田市の竜王山に行ってみる。
ヒヨドリバナは咲いているがアサギマダラは見つからず。
- 10月6日 山陽小野田市の竜王山にアサギマダラの観察会に出かける。
なかなか出会えず山頂近くでヒラリヒラリと舞っていた。麓に近い所でも見られた。
- 10月11日 博物館でもアサギマダラを観察。
- 10月23日 奄美大島の近作原原生林でリュウキュウアサギマダラ発見。
本土の物よりやや小型。毎年季節が巡る度に同じ景色に出会える喜びは何物にも変えがたい。(本間喜美恵)



竜王山にて



博物館にて



奄美大島にて

蛾の同定に苦戦中

山口市内の糸米川砂防園を中心としたエリアで、4年間、月2回+夜間の採集活動で得た蛾類の同定を行う。

同定できた蛾類は28科269種類、未同定多数。

シャクガ科85種、ヤガ科56種、ツトガ科32種、ヒトリガ科16種、メイガ科10種、ハマキガ科9種、スズメガ科8種、イラガ科・カギバガ科・ドクガ科・トリバガ科・ヒゲナガガ科各5種、コブガ科・シャチホコガ科各4種、マダラガ科3種、アゲハモドキガ科・キバガ科・ツバメガ科・ヤマユガ科各2種、アトヒゲコガ科・イカリモンガ科・オビガ科・スガ科・ハモグリガ科・ヒゲナガキバガ科・ホソハマキモドキガ科・マドガ科・ミノガ科各1種。

山口県内には2,000を超える種類の蛾がいると思われるので、このエリアだけでもさらに多くの種類が発見できると思われる。未同定の種類を早く確定して種類を増やしたい。

同定に苦勞する要因

- ①種類数の多さ…6000種の中から候補を見つけるのも一苦勞。
 - ②1cm前後の極小種が多い…標本用の微針を刺して翅を広げるのも大変。
 - ③専門家がない…生殖器の違いまでは検討できない。
- そこで同定を容易にするべく、パソコンで検索できるようデータ入力をしている。検索画面からリストを選べばパッと候補を提示してくれる検索システム構築中です。

さてどれくらいかかるやら？（吉本 進）



春から初夏ライトトラップで採集されたガ類標本



夏季ライトトラップで採集されたガ類を中心とする標本

昆虫 ONE TEAM

昨年、ラグビーワールドカップが日本で開催されて国中が大いに盛り上がりました。ラグビーの魅力の一つに多様性があり、それぞれの特性を生かしたポジションの選手が活躍することです。そこで動物界で最も多様性があるという昆虫でメンバーを組んでみました。

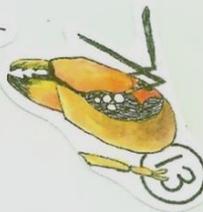
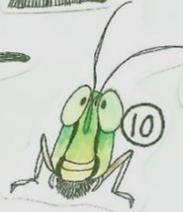
まずはフォワード陣、プロップはカブトムシ。スクラムの最前列で持ち前の怪力で押し込んでくれます。また密集戦では長い角で相手を跳ね飛ばしてくれるでしょう。フッカーは足での球扱いの上手なオオセンチコガネ。ロックはオオカマキリ。その長身と長いカマはラインアウトで強みを発揮しそうです。フランカーはオオクワガタ。力強い突進力と大アゴで強烈なタックルとボールハンティングが期待できます。ナンバーエイトはタガメ。大きなアゴは相手からボールを奪うジャッカルに最適です。

バックス陣はスクラムハーフにキマワリ。その敏捷な動きはスクラムやラックから素早くボールを出すことに役立ちます。スタンドオフはトノサマバッタ。俊足と強いキック力が特長です。もちろんプレースキッカーも務めます。センターはオオスズメバチ。力強いコンタクトと獰猛な性質がピッタリです。ただ黄色と黒の色合いは慶応か山高の選手と間違えそうですが。ウイングはハンミョウ。その快足と華麗なステップはトライゲッターとしての魅力がいっぱいです。最後尾に控えるフルバック、ここは広い視野と行動範囲で最後の砦としてオニヤンマが適任でしょう。

独断でメンバーを選びましたが、皆さんも昆虫を観察するときいろいろな想像をしてみるのも楽しいのではないのでしょうか。

(村上敬司)

ONE TEAM



サポーターは見た

スマホ顕微鏡をご存じですか？スマホのカメラ機能、安価な実験用ガラス玉、プラ板、薄い発泡スチロールの板を利用した顕微鏡です。単純な造りですが、驚くほどよく見えますし、写真も撮れる優れたものです。

博物館の展示はどれも興味深く、見て回るのは楽しいものです。サポーターをしていると、展示の裏に、その何倍もの「面白いこと」が隠されていることがわかります。

スマホ顕微鏡もそのひとつ。その他にもこんなものも見つけました。血液の循環をわかりやすく体験しながら知ることができる模型です。

また、野鳥の仮剥製もたくさんあります。ふだんは遠くから見るだけの鳥ですが、整理作業のために手にとってみると、その大きさや毛の柔らかさ、隠れている羽の色や細かい模様的美しさなど、新しい発見があります。

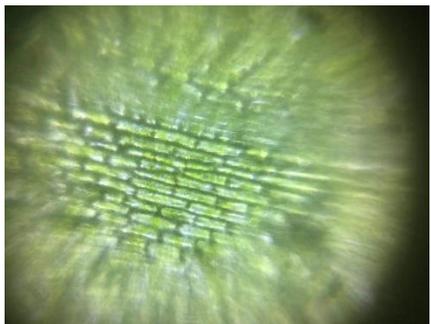
展示以外にも博物館では、学校で出前授業を行ったり、一般の人が気軽に参加できる各種講座を開いたりして、裏にあるたくさんの楽しさ面白さを共有できる機会を作っています。(村中明子)



サポーター活動で作成した野鳥の仮剥製



スマホ顕微鏡 拡大したい標本を円形内におき撮影する



スマホ顕微鏡で撮影したミジンコとオオカナダモの細胞



石油ポンプを使った血液の循環システムのモデル

食草から探してみるのもアリ！？

我が家のクロガネモチの木には、毎年、黄緑色の毛虫（ヒロヘリアオイラガの幼虫）が発生し、誰かが刺されて痛痒い思いをします。昨年はその中に水色の毛をまとった涼しげなのが10匹余り付いているのに気づきました。調べてみると、それはヤマムユガ科の大型種「シンジュサン」で食草はいろいろな広葉樹だそうです。

そこで、家の周りで食草となる植物を捜したら、クチナシに「オオスカシバ」、キンカンに「ナミアゲハ」、ウマノスズクサに「ジャコウアゲハ」、パンジーに「ツマグロヒョウモン」等の幼虫が見られました。「ミカドアゲハ」の食草オガタマノキにはまだ来ていないようです。

鴻ノ峰ではこれまでに、イヌビワで「イシガケチョウ」、アケビで「アケビコノハ」、カエデで「シャチホコガ」、コブシで「アカスジキンカメムシ」等を見ました。私のお気に入りの「ルリタテハ」は柏餅でお馴染みのサルトリイバラがお好きなようですが、まだ幼虫を見た事はありません。しかし、よく見かける植物なので、きっと会えると思っています

♡ （山田恵美子）



シンジュサン(ヤマムユガ科)の終齢幼虫



ジャコウアゲハ（アゲハチョウ科）の成虫（メス）と幼虫



アケビコノハ（ヤガ科）の幼虫



アゲハモドキ（アゲハモドキ科）の幼虫



アカスジキンカメムシの幼虫



クスサン（ヤママユガ科）の蛹



イシガケチョウ（タテハチョウ科）の幼虫と成虫（メス）



薪にくっつくべっぴんさん



ニジゴミムシダマシ

冬の我が家の暖房に欠かせない資源は薪です。薪小屋にはたくさんの薪を積んでいます。必要な薪を一輪車に積んで家の中に運びます。その時に気をつけていることがあります。薪にくっついて冬越ししている虫がいれば、できるだけ取り除くことです。

最もよく見つける虫は、クサギカメムシです。お行儀よく連なっていたり、団子のように固まっていたりします。ヘリカメムシの仲間もよく見かけます。カメムシ以外で見かけるのは、小さいながらも虹色の光を放つべっぴんさんのニジゴミムシダマシです。大きさは5mmくらい、体は黒色でつやつやして、テントウムシのような丸っこい甲虫です。光の当たり方や見る角度で、シャボン玉のようにとっても美しい虹色に見えるのです。この虫も、薪に連なっていたり固まったりしています。

静かな薪小屋の中もこうして見ると、たくさんの虫たちの冬越しの場所になっているのですね。(上田貴子)

成虫越冬するカメムシの仲間



クサギカメムシの成虫と幼虫



クモヘリカメムシの成虫



集団で越冬するオオトビサシガメ



オオトビサシガメの成虫



ノコギリカメムシの成虫

同定の分かれ道



採集した昆虫類を同定する作業では、まず仲間分けをします。翅の枚数・触角の様子、体長や出現時期など...

気づけば個体をそれぞれのパーツで観察していました。まるでプラモデルの部品のようにです。



ハチ? アブ?

翅 4枚

触角 長い

ハチの図鑑で調べる

チビアブシオナガヒナバチ (2019.12.21)



オシジミ?
チョッキリ?
ゾウムシ?

口吻 長い
触角 折れ曲がる

カシワアブトゾウムシ (2019.6.2)

口吻につく触角に注目

オシジミ チョッキリ ゾウムシ



でも見分けにくいものも多い



そして未同定はどんどん増えていくのでして
(岡田美子)

コラム 巣穴を探そう！ ニホンアナグマの巣穴



巣穴から顔を出すニホンアナグマ
(撮影：動物写真家 福田幸広 氏)

巣穴の出入り口位置関係

アナグマは漢字で書くと穴熊です。字のごとく巣穴で暮らす動物です。食肉目イタチ科の哺乳類で、鼻先から尾の付け根までの頭胴長は58～70cmで、体重は季節変動が大きく4月頃は4～7kgあります。田畑が隣接し、森がずっと続く里山の森にはアナグマが生息しています。アナグマは単独性で、成獣のオスとメスは別々に暮らします。メスの生活する範囲は平均約50haで、その中に20カ所近くの巣穴があります。巣穴は世代から世代へと受け継がれ、掘り出された土で、出入り口の前はテラス状になっています。巣穴を見つける極意はけもの道をたどり、丹念に前後左右を見ながら進み、掘り出された土がむき出しになったところを見つけることです。けもの道を歩くのは釣具店にあるスパイク式の長靴が適しています。



巣穴を掘るアナグマの頑丈な前肢 掘り出された土で出入り口前はテラス状

表紙描いて四方山話

ブロッコリーとアオムシ

11月やっと安くなったブロッコリーを買ったらアオムシが3匹！！
ブロッコリーの葉とキャベツを食べて大きくなり、サナギになりました。
モンシロチョウは卵で越冬するのですが、なんとか春までサナギでがんばれ！！と思っていたのに 暖冬。1頭、チョウになってしまいました。
砂糖水で1ヶ月近く頑張りましたが、・・・残念TT 残り2頭は春に花の中を飛びますように！（原まゆみ）



山口博物館サポーター動物班活動報告 “サポちゃん通信” No. 6

発行 2020年3月5日

編集 山口県立山口博物館サポーター動物班

発行 山口県立山口博物館 〒753-0073 山口市春日町8-2

Tel 083-922-0294 Fax 083-922-0353

サポちゃん通信バックナンバーも閲覧可能

<http://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/supporter.html>

